

コミュニティヘルスインターンシップ (CHI) (地域医療早期体験実習)

科目責任者 千 種 雄 一
学年・学期 1 学年・1 学期

I. 前 文

大学とは人間形成を行う場である。現在、医学教育ではプロフェッショナリズムの育成が最重要課題になっている。医師のプロフェッショナリズムとは、「人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、患者中心の医療を実践しながら、医師としての道（みち）を究めていく」ものであると医学教育モデル・コア・カリキュラムに明記されている。これが、医師として求められる基本的な資質・能力の第一に挙げられる。本実習は、最初のプロフェッショナリズム教育の場である。従って、本学病院、並びに地域における社会福祉施設、地域病院、特別支援学校などの現場を体験して、病気や障害をもって、あるいは高齢になって、不自由な生活を送っている方とその家族に触れ、相手の心を理解し、信頼関係を築くことが大切である。また、病院内の総合受付や診療科受付、救急外来を見学し、患者中心の接遇やマナーの大切さを知る。本実習の経験をもって、他者を思いやる心を身につけて、人間性豊かな医師への第一歩になることを願うものである。

II. 担当教員

各担当教員
CHI 委員

III. 一般学習目標

- 1) 医療の原点を理解し、技術だけの医療従事者ではなく人間性豊かな社会性のある医師として心構えを身につける。
- 2) コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築き、患者・家族の話を傾聴し、共感することができる。
- 3) 保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。
- 4) 地域包括ケアシステム概念を理解し、地域における保健・医療・福祉・介護の分野間および多職種間（行政を含む）の連携の必要性を説明できる。
- 5) 患者やその家族のもつ価値観や社会的背景が多様であることを認識し、そのいずれも柔軟に対応できる。

IV. 学修の到達目標

- 1) 将来医師として、的確な判断・良好なコミュニケーションが必要なことを学ぶ
- 2) 医療機関、福祉施設、特別支援学校の1日の流れを理解し、積極的に行動する。
- 3) できる限り積極的なコミュニケーションを行い、信頼関係の構築について学ぶ。
- 4) 遅刻や無断欠席がないよう時間を厳守し、適切な行動や態度に努める。
- 5) 積極的に実習を行い、常に医療者としての視点を忘れないようにする。
- 6) 社会における適切な礼儀に従い、マナー、言葉遣い、身だしなみを実行する。
- 7) 医学部の学生はすでに医療者であることを自覚して、大学病院内では患者第一に考える責任ある行動をとる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1 : 反転授業形式 (事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。))
- 2 : ディスカッション 3 : グループワーク 4 : 実習 5 : プレゼンテーション 6 : その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	6	11	金	4	コミュニティヘルスインターンシップ ガイダンス	千種雄一 野畑友恵 引率教員	
2	7	5	月	終日	全体オリエンテーション・ガイダンス 院内感染に関する講義および実習 救急蘇生術実習	千種雄一 各担当教員	4
3		6	火	終日	院内中央部門等配属実習 院内感染に関する実習	各担当教員	4
4		7	水	終日	学外実習（精神科病院・福祉施設・特別支援学校等）	各担当教員	4
5		8	木	終日	学外実習（精神科病院・福祉施設・特別支援学校等）	各担当教員	4
6		9	金	終日	実習報告書作成・グループ別討議・報告会（看護学部と合同）	野畑友恵 千種雄一 各担当教員	2, 3, 5

VI. 注意事項

1) 全実習共通事項

- ①決められた集合場所を厳守すること（5分前）
- ②病気等によりやむを得ず欠席する場合は、必ず教務課（直通0282-87-2419）および各実習先担当者まで連絡すること。
- ③身だしなみ（装飾品等）には特に注意を払うこと。髪の毛の色は自然な色合いにして、女子の長髪は束ねる。男子は長髪を禁止する。派手なアクセサリ、ピアス、つけまつげ、カラーコンタクト、マニキュア等は禁止する。
- ④言葉使いや態度等に十分注意を払うとともに、実習で知り得た患者様の情報を絶対に口外してはならない。
- ⑤実習中は担当者の指示に従うこと。
- ⑥その他詳細についてはオリエンテーション時に指示がある

2) 学外施設実習について

事前レポート・事後レポート・振り返りレポートを個別に作成し、各班では実習報告書を作成する。詳細についてはオリエンテーション時に指示がある。また、引率者と相談の上、各施設に問い合わせる。

3) 外来総合受付実習・診療科受付実習・救急外来実習については必ず、振り返りレポートを行うことがある。

VII. 評価基準（成績評価の方法・基準）

- 1) 各実習レポート・実習態度、各班の実習報告書その他により評価を行う。
- 2) 実習を欠席した者と60点未満の者については追・再実習を行うことがある。
※評価については、後日、オリエンテーション等で説明をする。

VIII. 教科書・参考書・AV資料

オリエンテーション時（または必要に応じて）資料を配布する。

IX. 質問への対応方法

基本的には、ガイダンス中に質問するようにする。ただし、その後わからないことができた場合は教務課が窓口となり、随時受け付ける（オフィスアワー：平日9:00～17:00）

X. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

XI. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験なし。引率教員による学外実習のグループ実習報告書と個人レポート添削後，再提出あり。

XII. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前：レポート1枚，準備課題1枚。

事後：振り返りシート4枚，個人レポート。

計，事前学習2時間，事後学習2時間

XIII. コアカリ記号・番号

A-1-2) 患者中心の視点

A-1-3) 医師としての責務と裁量権

A-2-1) 課題探求，解決能力

A-2-2) 学修の在り方

A-4-1) コミュニケーション

A-4-2) 患者と医師の関係

- A-5-1) 患者中心のチーム医療
- A-7-1) 地域医療への貢献
- B-4-1) 医師に求められる社会性